

東北復興日記



159

「いわきおてんとSUN」と「広野わいわい」。私たちが名付けたプロジェクト名には、肩肘張らない雰囲気を感じてもらえるように、誰もが自然に笑顔で集まれるように、との思いが込められています。

震災後の東北で、まちのにぎわいを取り戻せるような新しい未来創造型の事業を生みます。

いわきおてんとSUN
企業組合代表理事
吉田恵美子さん



まちのにぎわい取り戻せ

出そうと、復興庁が募ってきた「新しい東北」先導モデル事業。二〇一三年度は市民による再生可能エネルギーの実証実験事業で「いわきおてんとSUN企業組合」が選定され、本年度は「広野サステナブルコミュニティ推進協議会」による「広野わいわいプロジェクト」が採択。多くの方の応援を得て人が集える場づくり、手仕事づくりが進められています。

来月七日に、いわき市内を会場に「新しい東北」先導モデル事業の交流会が催されます。そこで参加者に、いわき市と広野町で実際に進められ

ている事業をご覧いただくのと、七八日にエクスカーション(体験型視察)を企画しました。ソーラーで生み出した電気による、いわき市内唯一の国宝建造物、白水阿弥陀堂境内の紅葉のライトアップ。田舎の民家を事務所とするおてんとSUNならではのオーガニックコットン栽培から製品作りまでの流れ。広野町で進められようとしている都市と地元との交流による防災緑地への植樹計画など。さまざまなチャレンジを紹介するとともに、双葉郡内に今も残る厳しい現実を知っていただこうという趣旨です。

市と広野町で実際に進められ

一泊二日でじっくり腰を据えて、見て聞いていただき、意見交換したいというこの企画は、東北の復興事業関係者のみならず、まちのにぎわいを生み出そうとしている全国の地域づくり関係者にとって大きなヒントにあふれていることと自負しています。

詳しくはホームページ
<http://www.iwaki-oten.com>
<http://www.tosun.jp/otentosun/news/2015/10/1178in.php>
で、多くの方の参加をお待ちしております。(申し込み締め切りは三十一日)

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

福島県いわき市で4月に開かれた「いわきパークフェス」。来月のエクスカーションで視察先に予定されている

